

令和6年10月4日

大阪府高等学校美術・工芸教育研究会

令和6年度 第3回役員会

(集合型・ZOOMによるオンライン併用会議)

1. 案件

①

②

2. 連絡・報告事項

各部より

1) 会計部

- ・第75回高校展 会計報告

2) 研究部

- ・思考研究会 11月22日(金) 15:00～ 港南造形

3) 高校展部

- ・第75回高校展 来場者数 合計 8739人 (74回展 8368人)
- ・第75回高校展 受賞数
優秀賞=61(62) 優良賞=77(60) 奨励賞=267(247) 集合作品奨励賞=9(14)
- ・第76回高校展の課題(大阪市立美術館工事後)
- ・第76回高校展出品要項(案)

4) 芸文祭部

- ・芸文祭コンクール展の要項を発送しました(9月24日)。
各ブロックで確認していただき、未着の学校があれば千里青雲・宮崎までお願いします。
➤ 今後の日程: 10月25日(金) 参加申し込み締め切(グーグルフォーム)
11月15日(金) 参加校説明会(天王寺高校)
- ・来年度(R7年度)芸文祭コンクール展は、大阪市立美術館で開催します。
1次搬入 2026年1月9日(金)
1次搬出 1月10日(日)
2次搬入 1月13日(火) ※12日は祝日のため

2次搬出 1月18日(日)

※例年よりも早くなっています。ご注意ください。

- ・次年度 近畿文 代表選者について
8月30日に選考済み。内定通知書を対象校に送付済み。
現在、内定承諾書の提出を待っている状態。

5) 研修部

- ・第1回実技研修会「木工入門」報告
- ・第1回新人・全体研修会「高校展を語る会」報告

各ブロックより

A 実技研修会 11/2 千里万博記念公園 スケッチ会 太陽の塔内部見学

B Bブロック展日程報告

C ブロック展の会場変更(昨年度会場の休館都合により)

場所: 阿倍野市民学習センター ギャラリー (旧6ブロックで使用経験あり)

大阪市阿倍野区阿倍野筋3-10-1-300 あべのベルタ3F

会期: 2025年2月1日(土)～2月2日(日) (搬入: 1/31)

芸文祭の後ということで、芸文祭出品作品の取り扱いについて確認しました。

今年度については、落選作品については出品可、入賞作品については不可と判断しました。

来年度以降同じことがあれば要検討。

来年度は、昨年度会場(大阪市立中央図書館)で実施を希望しています。

D 無し

E 無し

F 無し

G ブロック展日程報告

H

K 無し

事務局より

- 研究会名簿について
- 公私合同連絡協議会

例年は年2回(7月・1月)の開催だが、今年度は美術館や高校展・私学展に関する情報交換を目的として11月にも開催する方向で検討中。(11月29日(金)が候補日)
それに先立って11月8日(金)までを目途にメールにて資料・情報交換を。
(高校展部←→私学事業部?)

- 大阪府高等学校芸術科研究会
合同研修について

2025年1月10日(金)実施予定。

内容(検討中)

- ICT 機器 今さら聞けない授業での活用方法
意外と知らない授業での活用方法
- ウィンターカップ 作品展示について
- 近畿総合文化祭
総合開会行事・・・11月16日(土)
美術・工芸部門・・・11月15日(金)～17日(日)
- 読書感想画コンクール 審査員について
審査予定日 2025年1月11日(土)
- 令和8年度 大阪大会について

3. 連絡報告事項

1) 全国・近畿関係

- 近畿美術館博物館・美大研修「伝統から最先端へ 表現の変遷から学ぶ」
8月6日(火)、7日(水) 京都主催
- 近畿代表者会議 7月5日(金) 13:30～ ZOOM にて
- 第61回全国高等学校美術、工芸教育研究大会
8月20日(火) 都道府県代表者
- 大阪府高等学校芸術科研究会
第2回拡大事務局部会 9月13日(金) 実施。

2) その他

【役員表】(敬称略)

会長	山崎 裕彦(港南造形校長)		
理事長	内藤 さや(港南造形)		
副理事長	山崎 功典(港南造形)		
	倉津 典宏(枚方なぎさ)		
会計部長	古谷 明香(佐野工科)	副部長	相澤 真央(港南造形)
研究部長	池田 仁(港南造形)	副部長	増本 茜(港南造形)
高校展部長	芝崎 博敏(旭)	副部長	古屋 ひとみ(守口東)
		副部長	〇〇 〇〇〇(〇〇〇)
芸文祭部長	宮崎 さや(千里青雲)	副部長	松田 剛志(池田)
研修部長	畑 みのり(園芸)	副部長	百合野 美沙子(桜和)

事務局長：山口 真弓(柴島)

事務局：渡邊 美和子(桜宮)・酒見 直樹(港南造形)・麻谷 英樹(西成)
田中 伶奈(港南造形)・物種 佑佳(美原)・松田 麻衣子(茨木工科)
岡本 直子(北摂つばさ)・国分 幸子(刀根山)

ブロック長

- A 上野 真也(箕面東)
- B 藤田 ちあき(大冠)
- C 結城 啓介(西成)
- D 飛峪 由紀(芦間)
- E 渡邊 美和子(桜宮)
- F 岡垣 有香(松原)
- G 村上 恵美璃(成美)
- H 山田 莊子(和泉総合)
- K 酒見 直樹(港南造形)

副ブロック長

- 国分 幸子(刀根山)
- 西村 美穂(春日丘) 大高 陽子(摂津)
- 瀬島 由紀子(今宮)
- 山崎 優子(門真西)
- 梅木 沙羅(みどり清朋)
- 塩野 彰子(東住吉総合)
- 川北 博子(金岡)
- 石井 智恵子(泉大津)
- 高橋 和彦(港南造形)

〈顧問〉

仲谷 浩(河南/校長) 角 芳美(市立工芸/校長) 西田 悟(金岡/校長)
今西 良介(桜塚/准校長) 小畑 龍業(柴島/教頭) 山村 宏昌(福井/教頭)
瀧北 清香(長吉/府教育センター)

〈理事〉

丸山 勉(吹田東) 村田 和久(工芸)

◆大阪府高等学校芸術科研究会委員

事務局部会……………山崎(北摂つばさ)・倉津(枚方なぎさ)

芸術教育振興委員会…麻谷(西成)・酒見(港南造形)・物種(美原)・松田(茨木工科)

カリキュラム委員会…内藤(港南造形)・山口(柴島)

「高校展を語る会」 報告

日時：令和6年8月30日(金) 14:30～17:00

会場：大阪府立天王寺高等学校

参加者：教員18名

主題：令和6年度高校展の共有と振り返り

1. 会長より挨拶

「今年で高校展の分散開催も3年目。来年から天王寺の会場に戻るが、全体開催を未経験の先生もおられるので、来年に向けて意識を高めていきたい」

2. 各ブロックの作品紹介（写真のスライドを用いて）

当該ブロックの先生に審査の様子や印象などを共有してもらった。

すべての作品は紹介できないため、優秀賞・優良賞作品を中心に鑑賞した。

ブロック	審査時の様子・良かったことや困ったこと
A	会場で審査。部門ごとに人は変えず参加教員全員ですべての作品を審査した。挙手形式。奨励賞確定のあと、審査基準を切り替えて優秀賞と優良賞を選定していった。
B	会場では審査せず、事前に目録をもち各自票をもって、別室で挙手して審査を行った。賞が多いブロック。絵画30号に限定。絵画とデザインを比較するとデザインの審査が厳しくなる傾向という意見が出た。版画が1点のみで審査が難しかった。
C	目録を渡して各自票をもって審査。今年から工芸高校が参加し点数が増えた。立体や工芸少なく平面が多いのは少し残念。絵画50号まで。
D	順に見て行って審査。挙手形式。優秀賞は1点。枚方市展と高校展の日程が近く、昨年度から両方出すことが問題視されるようになったため、今年度高校展の出品数減少。今後要検討。
E	当該ブロックの先生がおられなかったため、コメントなし。優良賞が多い印象（他の先生より）
F	優秀賞が出にくいブロックだが、今回2点。全員で順に見てまわって審査。挙手形式。美術教諭少なく、審査が難しい。絵画が昨年より増えたが壁面を去年より増やしたので何とかあった。
G	従来通り挙手して審査。絵画1/3強が50号、残りが30号。彫刻立体1点のみ。版画は金岡のみ4点で、同一校のみ少数だと審査が難しかった。平面作品がクオリティが高い印象。
H	受賞数は少なめ。部門ごとにグループ分けして審査。デザイン部門の賞数が厳しい。彫刻立体4点と少ない。取り外し1点あり。

K	部門ごとにグループ分けし、来場者のない日に審査を行った。 絵画部門：優秀賞はほぼどれも最初から満票だった。 彫刻・版画部門：分野ごとに分けると専門教員の少ないところはわずかな数で入賞に影響する。 デザイン部門：デザイン3割イラスト7割。モチーフがいつもの少女・女子高生だがテーマやモチーフをしっかりと追求しているものも。 全体：自校を会場にしたことで全員の作品を展示できた。
---	---

3. 意見交換

おおまかなテーマごとに、それぞれの先生が思うことを共有した。主な意見は以下の通り。

『来年度からの制作指導について』

- ・絵画は30～120号の幅がある。向こう3年検討しながら30号はなくしていく方向だが、美術専科がおらず大きな作品の指導が難しい学校もある。
- ・放課後に生徒が残らないような困難校での活動継続の難しさ。教科外顧問となった部活動の難しさ。
- ・美術館に戻り、大阪府中のすごい作品や大作を目の当たりにする生徒のメンタルが心配。
- ・来年度は開催時期がこれまでより2週早い。工芸や立体の制作期間の確保が課題。
- ・コロナ禍を経て「限界を超えて制作する！」というエネルギーが生徒になくなった。すべてにおいて「無理しなくていいよ」という空気。本人たちは手抜きしているつもりはないが、コロナ前と明らかに違っている。
- ・天王寺高校：1年生は80号と決めている。
- ・吹田東高校：1年は50号とする予定。2,3年生は春休み中にパネルの準備をさせ、4月から数回アイデアスケッチのやりとり。スケッチは10枚以上必ず描かせる。
- ・高校展で入賞する作品はこれまで「高校展っぽい」作品だったが、新しい作風や価値観を表現する面白い作品が生まれてくることを期待する。

『来年度からの審査で期待すること、懸念すること』

- ・審査員の人数確保が難しい。
- ・30～120号を同じ基準で審査できるのか。30号に配慮すると120号が不利となるため、各号数で描くことの意味を生徒へ伝える必要性。
- ・30号は見やすい位置に展示すべき。何段掛けの上限を設ける
- ・彫刻も大作品小作品を同じように審査するので、絵画も可能に思う。
- ・オンライン審査も可能なのか。
- ・審査のバラつきやブレをどう減らすか。審査の質の担保。
- ・審査員の好みやベテラン教員に従うのではなく、それぞれが審査の質を向上させていく必要がある。
- ・数多くの教員で審査するか、分野ごとに審査するか。
- ・著作権違反を教員が完全に見つけることは難しい。
- ・高校展の審査が教員のスキルアップの場になっていたのも、いい勉強の機会だと思ってほしい。

『分散開催で得たもの、今後も取り入れてほしいもの』

- ・優良賞は残してもよいのではないか。
- ・優良賞をなくすか継続するか各ブロックで意見集約するかという話も。
- ・会場で観客もいる中での挙手制の審査に抵抗があった。分散期に投票制でやっていたブロックもあり、その方が良いように感じる。

【その他】

- ・新しい会場の正式な下見は4月以降。
- ・搬入路や台車（キリン・ゾウ）の数により出品規定に変更が出る可能性あり。搬入出時間が規則通りとなると台車が回りきらないこともあり得る。
- ・搬入出口や経路の状態によっては、立体作品のサイズ規定を変更する必要があるかもしれない。
- ・出品数の増減が読めないが、生徒数減少のため壁面18m上限の緩和や撤廃の可能性もある。
- ・コロナ以前、美術館で120校2000点強（集合作品込み）鑑賞者数15000、搬入出者1500～2000、収入200～230万（広告費30万込）、共同搬入出費用120万、美術館賃料80万。
- ・絵画部門が昨年1300点から今年度1500点と増加。逆にデザインイラストが減少。要因は不明だが、推察するにイラストはデジタルでやりたいという生徒が増えているのでは？ また美大受験をテーマにした漫画がヒットしているので、その影響でファインアートに関心が高まっている？
- ・スマートフォンの写真を見て制作する生徒が多い。参考資料が小さいせいか、完成作品に物足りなさがある印象。
- ・特定のキャラクターに影響を受けた作品への疑問。
- ・知的財産権について、既存のキャラクター等を校内で教育活動で使うのは可能だが、SNSがグレーゾーン。
- ・著作権・オリジナリティ・知的財産権については、法的な視点と教育的視点とに差がある。時代的にも考え方が大きく変わってきているので、一度それらについての教員向け研修を行ってもよいのでは。
- ・高校展の歴史を知っておいてほしい。分散開催は以前にも行われた。私学も一緒に全大阪でしていたことも。

4. 作品鑑賞会（会場校作品）

会場となった天王寺高校の高校展作品を中心に鑑賞、および美術室の見学。

意見交換の時間が延長したため少し駆け足となったが、絵画作品を中心に間近で多く鑑賞することができた。

木材価格が高騰している中、パネルをどのように再利用するか節約するかなど、作品の裏面や枠を見ることで参考にする先生も。

新規採用や若手講師の先生、支援学校から転勤してきた先生には、このように作品の内容以外にもわからない点が多々あると思うので、このような研修会やブロック会での情報交換を積極的に活用してほしい。

研修会当日は、文化祭前であり美術部の生徒たちがそれに向けてトンボ玉制作など準備に勤しんでいた。



写真は天王寺高校HPより

研修部

記録：若原茉美（港南造形）・畑みのり（園芸）

「木工入門」報告

日時：令和6年6月28日(金) 14:00～17:00

会場：大阪府立豊島高等学校

参加者：教員22名

主題：「木工入門～デザインカッター等を用いた簡易な木工制作～」

講師：岡田 晃希先生（豊島）

今回の研修は、大がかりな設備の要らない比較的簡易な制作課題を紹介・実践することにより、木工の授業に対するハードルを下げ広めることを目的としている。

●会長からの挨拶

「工芸の授業が減少していることは全国的な課題となっている。再来年に大阪で行われる全国大会でも、工芸をテーマの1つとする予定。今回のような研修を通して、工芸が活性化することを期待する」

●講師・岡田先生より

「自分は木工が一番好き。しかし最近の高校展・芸文祭を見る限り、本格的な作品を制作している学校は府内ではほぼ皆無と言ってよい。今後、少しでも多くの学校で木工の素晴らしさや可能性を実感してもらいたい」



●導入

まずは、工芸免許のない参加者のために木工の基礎知識をおさらいすることから。

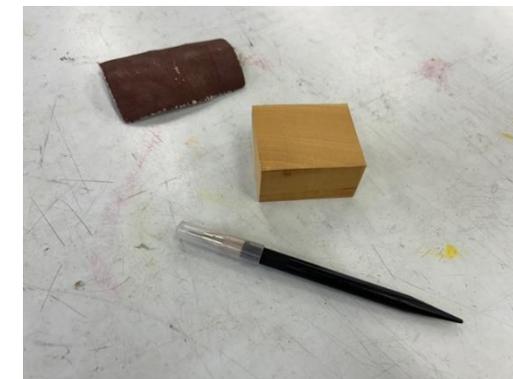
「彫り物、繰り物、挽き物、指物、曲げ物」の木工五種について簡単に説明。高校の設備だと最初の三種までが現実的である。

今回は、刃物を使い慣れていない生徒にも取り組みやすく用具も安価で済む課題を岡田先生にご準備いただいた。

●課題説明

「〇〇な風」をテーマにした抽象彫刻の制作。

用いる材料はアユーズ材もしくはイチヨウ材。注意点としては、赤い芯材の部分は硬いので生徒が使うには不向きとのこと。道具はデザインカッター、布やすりと金工用やすり。生徒が慣れてきたら印刀を使わせてもよい。



制作のポイントは3つ。

- ・木目を読むこと
- ・材料を固定して削ること
- ・よく切れる刃を使うこと

当たり前だがとても大事だという。特に1つ目の「木目を読む」が重要であるため、岡田先生は筆の束を使って、木材の繊維の向きについて説明していた。

木工のハードルの1つとして木材の選

び方や仕入れがあるが、岡田先生はあちこちで行われている名木展などで材木屋のパフレットを入手し、そこから仕入れてきたとのこと。木工をさらに探求するなら、ふだん発注している画材屋以外を調べてみたり、工芸に詳しい先生から紹介してもらおうのも良さそうだ。

●実践

形のイメージができれば、デザインカッターを用いて制作していく。まずは手の動きを覚えるためにひたすら角を削ることから。カッターで削り方を学ばせてから印刀を使わせると、作業効率が段違いだという。ケガをしにくくなるという安全面のメリットも。

ただ、それでも木材を支える方の手をケガすることがあるので、ガーゼテープを巻いておくとうれしい。



質の高い木工作品にするためには、木材の平らで大きな面をなくし、もとの角ばった形を感じさせないようにすること。それを考えると「〇〇な風」というテーマはとても良いように感じる。



カッターや印刀で荒削りができたら、次は研磨の工程に移る。ここで岡田先生が用いた金工用の棒やすりに驚く参加者も。金工用は木工用のものより目が細かく滑らかになると言う。その他布やすりなども併用しながら細部まで美しく仕上げていく。

本来ならばさらに塗料を塗る工程もあるが、今回はその手前で終了した。

●美術室および教材見学

その後は、岡田先生の集めた木材や工芸授業の教材などを参加者全員で見学させてもらった。立体をどのように彫りおこすか、そしてその工程をどのように生徒に伝えるかについて、岡田先生は「最初はおくまで面をとらえさせる。正面、側面、底面などそれぞれから見える図を下書きさせ、面ごとの形に集中させ彫らせていく」とのこと。

その流れを分かりやすく表現したサンプルなども自身で制作されており、生徒がより理解できるための工夫がたくさんあった。



研修を通じて、あらためて工芸授業を残していく必要性を感じた。実用性と美しさの両立、実践の中で学び取り工夫していく力など、生徒が工芸で学ぶことは多い。美術にはあまり興味を持てなかったが工芸では夢中になって取り組める生徒もいるだろう。そのような授業をこれ以上減少させず守っていくためには、工芸を「一部の高い技術や道具のある先生・学校しかできないこと」にせず、あらゆる学校で気軽に取り組めるものにすることが重要である。

10月に開催予定の第2回木工研修でも、あくまでハードルは低く、なおかつ奥深さが感じられるような内容にしたいと考えている。

(研修部・畑みのり)

第76回高校展 (大阪府高等学校美術・工芸展) 出品要項(案) 20240930版

大阪市立美術館 天王寺ギャラリー 第1/2/3/4室 天王寺区茶臼山1-82 ; 06-6771-4874

2025年 7月23日(水)~7月27日(日) ◆要検討 9:30~17:00 (入館は16:30まで)

- ◆検討中 【趣旨】 ①高等学校美術・工芸教育の一環として行う。
②高校生が表現活動を通じ、独自性と創造性を追求する機会とする。
③一般、中学・高校生の鑑賞の資とする。

【出品規定】 大阪府内の公立高等学校及び支援学校の生徒作品で、原則として学校外で発表したことのない作品。

《出品部門》 絵画、版画、彫刻・立体、デザイン、工芸の5部門とする。

《出品点数》 各部門に一人1点ずつ出品できる。ただし工芸部門は木工・金工・染織・陶芸・その他の各1点ずつ5点まで、
デザイン部門は自由課題・立体課題・テーマ課題の各1点ずつ、計3点まで出品できる。

◆要確認 立体物の共同制作作品は審査の対象とし、翌年の全国高等学校総合文化祭への代表作品の審査対象とする。

【申し込み】 所定の用紙に必要事項を記入し、6月のブロック会議までに各ブロック長に提出すること。

※ 支援学校は高校展支援部門担当者がとりまとめる。

◆検討中 (注) 絵画壁面の申し込み範囲 絵画壁面は1mから9m(高さの上限は4m)を基準とする。10m以上の申し込みを希望する学校は、
申込時(ブロック会議)に壁面追加申請書を提出する。(18mを上限とする。)

◆検討中 壁面が不足した場合は、7m以上で壁面m数の多い学校から削減する。又、7m以上の学校は壁面が折れる事を前提とする。
工芸壁面はm単位で申し込むこと。(高さの上限は4m)、壁面長の制限は設けない。

【出品料】 出品料は出品校教員会議(仮称)(7月4日(金))で、所定の用紙に金額を記入のうえ、納入すること。

絵画壁面 1mにつき	3000円	デザイン(自由課題) B1縦のみ	1000円
版画B1	1200円	デザイン(テーマ課題) B1 縦のみ	1000円
版画B2	600円	彫立・立デ・工芸の標準作品(立体)	700円
版画大作 B1パネル2枚大まで	2000円	大作(彫立・立デ・工芸)投影床面積1㎡につき	1000円
工芸壁面 1mにつき	2000円	デザイン・立体・工芸作品台(大)1台	1000円

◆検討中 ※共同搬入参加校は、共同搬入参加費用として別途一校につき3000円を納入すること。 ◆検討中 ※ 絵画1点出品については別途料金規定を定める(別紙)

◆生徒説明会は検討中、◆搬入・搬出時間は要検討【展覧会までの手続き】

(生徒説明会orなし)	(5月ごろ?)		(オンデマンド)	
申込各ブロック会議	5/30or6/6(金)	14:30~17:00	各担当校	各ブロックの高校展部員に申込書を提出
出品目録の提出	6/20(金)	締切	各ブロック担当者	ブロック毎に決められた担当者へメールで提出
① 出品校教員説明会 ② 出品校教員会議 (仮称)	7/4(金)	14:00~15:00 15:00~17:00	アウィーナ大阪?	①初参加校の顧問教員の説明会+基本的なQA ②出品校の顧問教員対象。必ず出席。欠席は棄権となる。 出品料納入、変更手続き、目録確認、各係打合、諸連絡。
作品搬入	7/22(火)	(12:00~16:00)	大阪市立美術館	搬入作業、目録提出、金具・止めゴム等貸与を受ける。
作品搬出	7/28(月)	◆(9:00~12:00)	大阪市立美術館	搬出作業、金具・止めゴム等を返却。

◆下見後再検討【表彰式】 表彰式は、7月27日(日)午後2時より会場に於いて行う。優秀賞受賞者は必ず出席すること。(集合は午後1時30分)

◆要確認 【その他】 今展覧会出品作品より、来年度の全国高等学校総合文化祭「美術・工芸部門」に参加する生徒を選定する。

◆要確認 :センターでの展示の有無は研究会がセンターに依頼する形になる 今展覧会出品作品より、今年度の「選抜展」(大阪府教育センター展示)に
出品する作品を選定する。
《出品に関する注意事項》

絵画	30号(作品の長辺が91cm以上)から120号(作品の長辺が194cm以下) 額装すること。 平面作品は、壁面から30cm以内であること。
版画	B1又はB2パネルを基準とする。パネルでない場合は額装する。
彫刻・立体	彫刻・立体作品の標準は、1点展示とし、自校で用意した60cm平方以内の台の上に置ける大きさであること。
デザイン	平面作品はB1パネルのみ。壁面から10cm以内であること。テーマ課題と自由課題を設ける。 平面作品はテーマ課題・自由課題とも縦位置とする。今年度テーマは「_____」 立体デザイン作品は、自校で用意した60cm平方以内の台の上に置ける大きさであること。
工芸	工芸の立体作品の標準は1点展示とし、自校で用意した60cm平方以内の台の上に置ける大きさであること。 壁面展示の作品は、割当m数の範囲内で、高さ4m以内に展示可能なものとする。
作品台(大)	デザイン・彫刻立体・工芸のテーブルに展示する作品は、自校で用意した90cm平方以内の台の上に置くこと。 集合作品は、1部門につき1テーブルを用意し、同じ台に2部門にまたがる作品を置かないこと。
大作	彫刻・立体は投影床面積が60cm平方を超えるもの。工芸・立デは、底面の一辺が60cmを超えるもの。 ただし、投影床面積最大4m以内とする。版画は、B1パネルを超えるもの。ただし、B1パネル2枚大までとする。
その他	壁面と床面の両方を使用する作品は、自校の絵画壁面に含めて申し込み、床面の使用料(出品料)を加えて納入する。(備考欄に内容を記入) 彫・立・工・立デとも安全性・他の作品の鑑賞条件から、高さは台座(作品台)を含めて2m程度とする。自立・安定させること。 美術館入口から安全に搬入できるサイズや形状であること。電源を使用する作品は目録提出時に申請すること。 投影床面積2㎡を超えるものについては、申込時に高校展部の割付係に相談すること。 上記の規定概念に入らない作品については、必ず作品の具体的な形態や内容を文書にて高校展部まで提出すること。 但し、支援学校の生徒作品については、上記作品の大きさに関する規定を適用しない。 高校展の趣旨を踏まえ、公序良俗に反する表現は避けること。

★作品は、高校展および選抜展主催者の制作する図録(特集号)、ポスター・案内状(次年度用)、ホームページ等に無償で使用できるものとする。

【主催】大阪府高等学校美術・工芸教育研究会 ◆検討中【後援】大阪市・大阪府、大阪市・大阪府教育委員会、他

【この件に関するお問い合わせ】大阪府高等学校美術・工芸教育研究会 高校展部事務局 大阪府立旭高等学校 芸術科(美術):芝崎博敏

第3回役員会 高校展部資料

[報告]

1. 75回高校展入場者数

A	1457人
B	781人
C	1106人
D	1270人
E	505人
F	603人
G	855人
H	726人
K	1436人
計	8739人

2. 75回高校展受賞数

ブロック	絵画優秀賞	絵画優良賞	絵画奨励賞	版画優秀賞	版画優良賞	版画奨励賞	デザイン優秀賞	デザイン優良賞	デザイン奨励賞	彫刻立体優秀賞	彫刻立体優良賞	彫刻立体奨励賞	工芸優秀賞	工芸優良賞	工芸奨励賞	集合作品奨励賞	各ブロック入賞数	集合作品	出品総数	来場者数
A	2	2	24	0	0	0	1	1	5	0	0	1	0	0	2	5	43	12	136	1457
B	10	8	28	0	0	1	5	2	4	1	2	3	0	1	2		67	1	191	781
C	3	2	18	0	0	0	0	2	3	0	1	1	0	0	0	2	32	5	125	1106
D	1	6	23	0	0	2	3	3	6	0	0	1	1	1	5	1	53	3	243	1270
E	3	4	16	0	0	1	2	3	3	0	1	2	1	0	0		36	0	105	505
F	1	3	10	0	0	0	1	1	4	0	0	1	0	0	0		21	0	110	603
G	2	4	18	1	1	1	1	2	7	0	0	1	0	0	0		38	0	99	855
H	1	5	12	0	0	0	0	1	3	0	0	2	0	0	0		24	1	134	726
K	8	3	21	1	3	5	4	7	7	1	3	5	7	5	18	1	99	1	344	1436
計	31	37	170	2	4	10	17	22	42	2	7	17	9	7	27	9	413	23	1487	8739
優秀賞	31			2			17			2			9							
優良賞		37			4			22			7			7						
奨励賞			170			10			42			17			27	9				
各部門出品数	795		49			406			75			162							1487	
優秀賞 = (61) 優良賞 = (77) 奨励賞 = (267) 集合作品奨励賞 (9)																				

令和7年度(2025年度) 第76回高校展 検討課題・確認事項・下見等

■赤字が9/13に芝崎が大阪市立美術館 担当木下さんに電話で質問し、いただいた回答です。

0、高校展

会期：令和7年(2025年)7月23日(水)～7月27日(日) 9時30分～17時 (入場16時30分まで)

会場：大阪市立美術館 天王寺ギャラリー 第1・2・3・4室

〈 参考：2021年時点での高校展の規模 〉

参加 120 校前後。参加生徒+教員=1500人前後(搬入・搬出時の人数)

展示作品数2000点強。鑑賞者12000人～15000人。

搬入車両：トラック36～40台+普通車5～10台程度。

【 美術館打ち合わせおよび下見での質問・確認事項・希望等 】

1、美術館との打合せ

【聞き取り回答概要】

→地下展示場改装は、壁を塗りなおし、照明を LED に交換、空調設備を交換を行った。基本的な壁サイズ、電源コンセント位置等の変更はなし、とお聞きしました。

大きく変わったところは、1階地上入り口のスロープはなくなり、1階の入り口を入ったらすぐエレベータがあるようになったこと。階段もあり。

地下展示場から本館に直接アクセスできるようになったこと。なので本館から地下エントランスへの動線にお客さんが増えるだろうと予測されること。

2、美術館との打ち合わせ・下見で具体的に確認したい事項

(下見で確認が基本。以前の割付図面と同じか確認作業。下見なしで確認できるものはそれでも可)

① 〈 搬入・搬出 関連 〉

(1) 搬入出全般の確認

〈 2021年の搬入出方法 〉 ※資料を併せて参照

○ 地上駐車場と地下入り口前の二か所から搬入出。

→大丈夫。

○ 地上駐車場は1階正面右手のスロープから作品を運び、搬入用エレベーターで地下に降ろす。

→スロープはなくなった。1階入り口入ってすぐのエレベータを使用しての搬入は可能。(7/22 搬入日は本館が休館なので大丈夫)

○ 地下入り口前は、トラックを地下入り口前に駐車し、そこから地下正面入り口を通り、会場に手持ちと台車で搬入出。

→大丈夫。地上と地下で無線で連絡取り合いながらトラックの連絡を行うことを引き続きお願いしたい。

○ 搬入開始時間：搬入は、前の団体の搬出・撤収・会場チェックが終わり次第、入館。炎天下の館外で生徒

が多数待機しているため、できるだけ早く入館させてもらっていた。

→前の使用団体が搬出退出する前に入ることはむづかしい。

○ 搬出開始時間：搬出は、8時少し前から入館させてもらい、搬出作業開始

⇒ これらの搬入出方法は2021年と全く同じことが可能？

→基本的に9時～なのでむづかしい。

(まだ未定だが、高校展の次の私学展の搬入を7/28ではなく、私学展初日の7/29のAMに実施するかも、との話もあり。その場合は高校展の搬出を余裕をもって行える。)

〈 そのほか搬入出についての確認事項 〉

○ 使用可能(もしくは不可)なエレベーター・エスカレーター・階段・通路の確認

→以前と同様に可能

○ トラックおよび普通車両の駐車場所、台数、サイズ(普通、2t、4t)

→以前と同様に可能

○ 搬入・搬出時、実際に入館可能なのは何時か？

→9:00

→特に搬出時(7月28日(月))。以前は8時前から作業できた。以前より遅い場合、搬出作業が間に合わない可能性あり。

→その場合、最終日(7月27日(日))の終了時間を早め(15時or16時)、展示室内で梱包作業をおこなう等の対応が必要かもしれない。

(2) 雨天・荒天時の搬入出

○ 2021年以前、ひどい雨天・荒天時、館内の荷解場(にときば)を使用したことがある。

⇒ リニューアル後に使用可か？もしくは、車両の駐車位置から館内まで作品が濡れない搬入経路はある？

→荷解場は使用不可になった。荷解場から地下展示場にアクセスできない。

→ひどい雨天の場合、地下入り口にトラックの後部をぎりぎりまでつけて荷下ろしするしかない。

○ 暴風警報発令時(教員のみ)の搬入可能か、美術館は開館するのか？等

→午前7時大阪市の暴風警報、大雨特別警報発令時は美術館は休館。教員のみ)の搬入も不可。

② 〈 施設・設備・備品 関連 〉

○ 第1～4室の壁面レイアウト(パーティション位置、壁面の非常灯や排気口等の位置は同じか？

割付作業のための会場図面に必要な情報収集。下見で実際に計測して確認したい。

高校展独自の図面：電源位置、消防設備や換気口など展示不可な位置や高さを詳細に記載、

→工事前と壁面レイアウトは同じ。

○ 第1～4室前廊下の壁面は展示可能か？照明は？ピクチャーレールは？

→工事前と同様、展示可能。照明はLEDになったが位置は同じ。ピクチャーレールもそのまま。

○ 高い台車(通称キリン)について。台数(旧2台)、収納倉庫の場所(旧第2・4室)、キリン収納倉庫の広さ(台車の倉庫および梱包材置き場に使用していた)、それぞれ同じか？※倉庫中まで確認希望

→台車、台車収納場所も工事前と同じ。

○ また、組み立て式の台車(通称ゾウ)は第5室に解体した状態で置いてあった。10～12台程度。

これを組み立てて使用していたが、同様の使用が可能？

→同様の使用可能。

○ 第5室(搬入時受付・台車・奥のスペースを脚立置き場等に使用)の使用については同じか?申し込みや料金は?

→同様の使用可能。7/22 7/28 予約済み。3000 円/1 日

○ 控室 (場所、広さ、備品)は同じか?申し込みや料金は?

→工事前と同様。予約済み。3000 円/1 日

○ 机・椅子など備品の使用は従来通りか?費用や事前申し込みは不要か?

→工事前と同様に使用可能。

○ 地下入り口正面の会場受付場所は同じか?

→同じ。ただし地下展示室から本館が直接アクセスできるようになったため、受付の場所を検討したほうがいいのかも。

○ 地下入り口正面のエントランススペース(表彰式で使用)は同じか?表彰式で使用可能か?

→地下展示室から本館が直接アクセスできるようになったため、エントランススペースでの表彰式は避けたほうがよい。審査室(第5室)での実施をおすすめ。

○ 展示用の金具(フック)、鎖、ゴムは同じ形状?(美術館のフックは特殊な太さ)

→同じ。

○ 椅子・机を借りるのは同じか?(控室・第5室のものを自由に使えた)

→同じ。

○ 受付場所(会場マップの置き場合む)の位置

→地下展示室から本館が直接アクセスできるようになったため、受付の場所を検討したほうがいいのかも。

○ 電気を使用する作品(工芸・立体・映像)の展示と電源の確保は可能?

→工事前と同様に可能。

令和6年度 ウインターカップにおける作品展示について

第77回大阪高等学校バスケットボール選手権大会の開催にあたり、大阪高等学校体育連盟バスケットボール専門部様より、会場の2階通路に大阪府下の高校生作品を展示して頂きたいとのお願いがありました。会場を訪れる方々に芸術とスポーツの両方を楽しんで頂きたいという趣旨の企画であることから、昨年度と同様に協力する方向で進めていきたいと思っております。

【日時】 令和6年10月26日（土）～10月27日（日）

【会場】 おおきにアリーナ舞洲
大阪府大阪市此花区北港緑地2丁目2-15

【搬入】 令和6年10月25日（金）午後2時～（予定）

【搬出】 令和6年10月27日（土）午後1時～（予定）

【展示作品】 令和6年度高校展 絵画・版画・デザイン部門の「優秀賞」受賞作品<26校50点>
※安全面を考慮して部門を絞りました。

- 【その他】
- ①搬入出については大阪高体連バスケットボール専門部および大阪エヴェッサのスポンサーである引越革命株式会社が協力していただきます。
 - ②搬入に際して、作品の保管、紛失等のリスクと積み下ろし回数が増えることで事故がないように、集荷時の専用車両にてそのまま保管し25日午後に会場に直接届けるという方法が望ましいとのことで、トラック2台チャーター（3日工程）を想定しています。（※10月〇日、〇日に集荷予定。）
 - ③展示パネルは港南造形高校からお借りする予定です。
 - ④搬入出（パネル設営や作品展示等）は、出品校の生徒及び教員に可能な範囲で協力をお願いします。
 - ⑤詳細については、内容が決まり次第、出品を依頼する学校に連絡いたします。
 - ⑥招待券の引き換えを高体連受付ブースで行います。10月26日（土）の高校試合終了後（14:00～17:00頃）の受付は美工研が担当することになっています。
 - ⑦今年度から交流を兼ねて作品の表彰をして頂けることになりました。
 - ・引越革命賞 1点
 - ・大阪エヴェッサ賞 1点
 - ・高体連バスケットボール専門部賞 1点（仮称ですが、このような賞を考えて頂いております。）

大阪府立〇〇〇〇高等学校
校長・准校長 様

大高美工研-研一第2号
令和6年10月1日

大阪府高等学校美術・工芸教育研究会
会 長 山 崎 裕 彦
(公 印 省 略)

令和6年度大阪府高等学校美術・工芸教育研究会

第1回 思考研究会の開催について（依頼）

平素より、本研究会の活動にご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。

さて、標記につきまして、下記のとおり開催しますので、貴校 〇〇〇〇 先生の参加について、ご配慮いただきますようお願いいたします。

記

1. 日 時 令和6年11月22日（金）15：00～17：00
2. 会 場 大阪府立港南造形高等学校 本館1F ガイダンス室
大阪市住之江区南港東2-5-72（TEL 06-6613-1000）
ニュートラム南港口駅もしくは南港東駅から400m
3. 内 容 「分野別座談会」
 - 1) 陶芸・グラフィックデザイン・版画の分野に分かれて質疑応答や教材共有など
*ご希望の分野のみ参加も可能です。
 - 2) 今後の課題など情報・意見交換を行う
 - 3) 今後の研究部の活動についての希望調査

研究部員の方は、終了後短時間で会議をお願いします。

4. 参加費 無料

本件に関する問合せ先

大阪府高等学校美術・工芸教育研究会 研究部部長

大阪府立港南造形高等学校 美術科 池田 仁

TEL. 06-6613-1000 FAX. 06-6613-6752

大阪府立○○○高等学校
○○ ○○ 様

大高美工研-研一第2号
令和6年10月1日

大阪府高等学校美術・工芸教育研究会
会 長 山 崎 裕 彦
(公 印 省 略)

令和6年度大阪府高等学校美術・工芸教育研究会
第1回 思考研究会の開催について（依頼）

平素より、本研究会の活動にご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。
さて、標記につきまして、下記のとおり開催しますので、参加いただきますようよろしくお願いいたします。

記

1. 日 時 令和6年11月22日（金）15：00～17：00
2. 会 場 大阪府立港南造形高等学校 本館1F ガイダンス室
大阪市住之江区南港東2-5-72（TEL 06-6613-1000）
ニュートラム南港口駅もしくは南港東駅から400m
3. 内 容 「分野別座談会」
 - 1) 陶芸・グラフィックデザイン・版画の分野に分かれて質疑応答や教材共有など
*ご希望の分野のみ参加も可能です。
 - 2) 今後の課題など情報・意見交換を行う
 - 3) 今後の研究部の活動についての希望調査

研究部員の方は、終了後短時間で会議をお願いします。

4. 参加費 無料

本件に関する問合せ先

大阪府高等学校美術・工芸教育研究会 研究部副部長

大阪府立港南造形高等学校 美術科 池田 仁

TEL. 06-6613-1000 FAX. 06-6613-6752

出席連絡 FAX 通信票

送付先

大阪府立港南造形高等学校 池田 宛

FAX 番号：06-6613-6752

メールアドレス：T-ikedaJO1@medu.pref.osaka.jp

ご参加申込を 11月8日(金)までにFAXかメールでお願いします。

大阪府高等学校美術・工芸教育研究会

第1回 思考研究会 に

令和6年11月22日(金) 15:00~17:00

『 参 加 』 します。

事前に分野ごとのご質問を募ります。是非ご記入下さい。

*メールでご返信の場合もご記入ください

希望分野：()

ご質問：()

発信者

_____立_____高等学校

お名前_____

大阪府高等学校美術工芸教育研究会【高校展会計】75回展 収支報告

収入の部	予算	決算
高校展出品参加費(搬入出料含む)	¥2,000,000	¥2,396,800
賛助金	¥300,000	¥370,000
小計	¥2,300,000	
予備費	¥2,129,506	¥2,129,506
利息	¥15	¥90
合計	¥4,429,521	¥4,896,396

支出の部	予算	決算
会場使用料	¥0	¥0
共同搬入出運送費	¥1,300,000	¥1,061,513
DM・ポスター印刷費	¥100,000	¥27,220
事務費	¥50,000	¥990
派遣費(監視アルバイト代他)	¥0	¥0
記録写真代	¥0	¥0
賞状印刷費	¥30,000	¥29,437
高校展特集号制作費	¥75,000	¥75,000
会場図作成費	¥150,000	¥176,000
その他(会場費・共同搬入出以外のブロック支出合計)	¥100,000	¥40,709
	¥0	¥0
予備費	¥2,624,521	
合計	¥4,429,521	¥1,410,869

次年度予備費	¥3,485,527
--------	------------

以上の通り相違ありません。

2024年8月31日

大阪府高等学校美術・工芸教育研究会

会計部長

古谷 明香